Dグループ（区全体のまちづくりと鷺沼駅周辺の再編整備）

防災、コミュニケーション、 教育、 緑を大事にしてブランド化につなげる

1. 内　容
鷺沼駅周辺再整備をきっかけとして、 区全体のまちづくりに求めるもの

2. 解決の方向性
求められる機能の内容・空間のあり方

3. こだわりのポイント
配慮すべき点や、 鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応

4. 実現に向けた方向性
今後のプロセス・役割分担など

A-①災害対策

- （区全体として）災害に強いまちづくり
- 災害に強いまちづくりが必要
- 災害に強いまちづくりを進める
- 災害に強い まちづくり
- 災害時を考慮した拠点配置（機能分散）
- 災害時にどうなるかから考える（機能分散）
- 防災機能としての区役所の立地
- 区役所は防災拠点として機能を果たせる場所に置く
- 警察・消防との連携
- 警察・消防との一体である場所が防災上望ましい
- ボランティア活動・地域の互助活動の場を考慮
- 区役所・市民館は災害時の荷さばき場、ボランティア活動の場になる
- 災害対策本部には、給水所・自衛隊の活動拠点スペースが必要
- 自主防災
- 情報発信
- フロンタウンを活用した拠点
- 井戸水がある場所を地図にしてアピール　市の土地に手おしポンプの井戸を掘る
- 世代をこえて働き交流できる場所
- 役割に応じ組織を作る
- 一極集中！！
- 備蓄品の分散・1km 四方などに置ける場所があれば
- 宮前平 市民館、図書館 趣味講座 継続的に 3 か月に 1 回などの防災訓練 一緒に防災料理、簡易ベットつくり、コミュニケーション促進 新しい組織づくり
- 災害に強い機能の設置

A-②現区役所用地の活用

- 現在の区役所周辺の衰退に対する不安（区役所を移転する場合）
- 区役所があったから、今の宮前平がある
- 不便といわれる場所に何ができるか不安である
- 地域が衰退してしまう不安がある
- 現在の区役所周辺が衰退しないように
- 跡地の適切なあり方の検討
- 仮に移転するとした場合の区役所等用地（跡地）のあり方を考える必要がある
- 緑空間
- ヘリコプター着陸できる広さの土地？
- スペースが心配
- 防災拠点 人が集まれる広さ 宮前平　市民館 避難所として使える
- 防災拠点は区役所そのものである
- 情報収集、発信
- 災害対応
- 跡地に防災機能設置（区役所を移転する場合）
- 跡地は防災の機能を残していく
- 消防、警察、区役所のまとまり希少 →跡地になっても災害時の機能を考える
- 区役所移転機能は一部とする（跡地の衰退抑制）
- （区役所機能の）一部が鷺沼にいくならいいと思う。
- 現在の場所にコミュニティセンターを作りたい 役所の窓口移転後に
- 区役所の鷺沼への移転は窓口だけで良い
- 相談窓口 保健所 なら移ってもよい
- 市民館　図書館 移転しなくても良い
- 宮前平の誘致には防災拠点になりうるような公共施設が欲しい
- 防災広場
- 移転時、跡地は分庁舎として防災に強い建物を設ける

A-③コミュニケーションの促進、高齢化への対応（災害対策としても有効）

- 非常時に重要な日常からのコミュニケーションの促進
- コミュニケーション不足を改善する必要がある
- いざというときは助けを求められる
- 高齢化や人口減少を踏まえた活力あるまちづくり
- 高齢化対策どう実践していくか
- 誰もが大切にされる多くの場所 教育、災害に強い
- ・ほっとできる場所 ・文化（みどり　図書館利用 2 位）を大事に
- 誰もがほっとできる場所の創出
- どんな方でも訪れてもとがめられない場所が求められている
- ボランティアさんなどと話して顔の見える関係をつくる必要がある
- 皆さんが集まれるような場が必要である
- 災害と「医療・福祉・介護」を一体的に検討　そして地ケアの活用
- 地ケアが今後重要になる（震災の時も有効）
- 医療・福祉・介護・災害　一体的に考える
- 歩いて行ける場所 講習受けたいきいきシニアリーダー配置 コミュニケーション促進　イベントではなく防災訓練 防災料理など班で行う
- 誰もが大切にされる多くの場所 教育、災害に強い
- 防災 災害に強い（医療に強い）
- 無料でほっとできて、子どもも過ごすことができる場
- ほっとできて無料で使える空間
- 子どもが過ごせる場
- 互助のネットワーク構築
- 助け合い（互助）情報のネットワークが必要
- （現在の）図書館や市民館などに「こどもやお年寄りがほっとする場」を設置
- 生涯学習の場の設置
- 緑・桜・農・文化・歴史を学ぶ
- 大和市シリウスのような交流施設ができれば望ましい
- 子どもやお年寄りがほっとできる場所が図書館と市民館としたい
- 体育館 ダンスホール
- 生涯教育の場を検討していきたい
- ひきこもりの方々の居場所、青年室 横浜では NPO が 5 か所設置
- 小中学生　こどもの居場所
- 老人いこいの家 高齢者の趣味活動、交流が健康寿命を延ばす
- 文化意識を高める場所
- 医療センターの設置
- 自習室

B 区全体の魅力向上・活性化

- 若い人たちに選ばれるまち
- 若い人たちが住んでいけるような場所にする必要がある
- 多拠点化で、暮らし・商売の視点から魅力的なまちへ
- 多拠点化、サテライト・エリアターミナル型
- 2 つの極をつくる
- 区に核になる場所がない
- 暮らしやすい商売のしやすいまちに ⇒核が必要
- 鷺沼に一極化すると区全体の力は落ちるのではないか？
- 鷺沼と宮前平の 2 つのヘソができることで魅力は維持できる
- コンベンションセンター 図書館
- ブランド化の推進
- 地域の個性を活かした、宮前区らしさ、ブランド化
- 駅等を核に区全体がつながり、バランスの取れたまちづくりを進める
- 活かそう みやまえの 人的資源
- 核を中心に「区全体がつながるまちづくり」
- 再開発の機会を捉え 鷺沼の“拠点”としての活用
- 鷺沼から放射状に結節するまちづくりが必要となる
- （さぎぬまが核になるなら）それを活かして考えていく
- 鷺沼は商業よりも住宅街として発展させる方がよいと思う
- 鷺沼に区役所が魅力がかなり増加するわけではない
- 人的、物的資源の有効活用
- ブランド化には新たな視点も必要
- 「ブランド化」といったとき、人的、物的資源がうまく活用されていない
- 今あるものは「ブランド」にはなり得ない（これまでならなかったから）
- 駅で野菜を販売する 宮前平　宮崎台
- 世代を超えて活動できる線空間
- 相談拠点、図書館、区役所機能、(サテライトオフィス) などを各拠点に配慮する
- 図書館 広い箱ではなくてよいので、各拠点にそれぞれにあるとよい
- 相談できる拠点は近くにあるとよい
- 予算上での課題は考える必要がある
- どちらに移すにしろ、ICT を使ったサービスは充実を図る
- サテライトオフィスのようなものがあったらいいのではないか
- 緑、桜、農業、植木のまち、文化のまち、教育、スポーツ、歴史、祭り、教育施設の誘致、子どもから高齢者までを対象とした交流や講座
- 外国人の住みやすさの向上
- 住民目線、サービスの鷺沼駅前 区役所
- 東京に近い 外国人が住みやすいまちに コミュニティ →ブランド
- 安心、安全に！ その為には防災、災害に強いまちづくりを！！
- ↓宮前区のブランドにつながる
- 農業のまち 地産地消のための作物の販売
- ブランド化
- 図書館活用 ホール活用 ダンス文化の地
- 教育都市 学園都市 クリーン都市
- 教育地区 レベル高い
- 図書館を現在の場所に残し、児童の文化レベルを保つ 区の魅力にする
- コミュニティバスの活用
- 区役所までのバスを増やす
- 区役所までのバス便を増やす
- 人口減 鉄道ではなく（採算のとれない）コミュニティバス

C 区役所へのアクセス・交通

- 区民にとってのアクセス性が課題
- 区役所は区民にとってアクセスが悪い位置にあることがそもそもの問題
- バス路線の混雑が課題
- バス路線混雑
- 鷺沼駅周辺再編整備には、道路状況を含めて改革する必要がある
- 区役所の適切な立地の検討
- 公共施設の配置に関する合理的な議論・検討
- 区役所の位置について検討すべき
- バスを便利に活用できるようにする
- バス便を便利に
- どうやってバスをうまく活用するか？
- 立地や交通、利用頻度から検討
- 移転なら駅直結 雨にぬれずに行ける
- 区役所 区の中心に置くべき
- 区役所は交通の結節点にあった方が良いのではないか
- 戸籍や住基のことを考えると利便性は多少目をつぶったほうがいい
- 区役所は防災・災害拠点であり、リスクの低い所に置く。
- 宮前区全体を見据えた検討
- さぎぬまのバス向上 宮前区全体がよくなるわけではない

D その他

- まちづくりの合意形成 限られた時間・資産の中で責任もって発言する
- テーマに「鷺沼」はいらない、区全体のまちづくりのみを検討したい
- 駅にあったらよい機能
- 保育園 ワーキングスペース 図書館 学童保育 ジム
- 保育ステーション機能 朝・夕は そこに集めれる
- 利便性を考えると、区役所機能ではなく、保育園など毎日する機能を入れたほうがいい
- コミュニケーションだ！！ ふれあいの区だ！

凡例：第4回での意見（黄色）／第4回での意見（ピンク）／第3回での意見／第2回までの意見の整理／一番シール／重要シール